土曜
ASHUREY CLASS

原文で味わう詩篇23篇

תהלים

No. 1　2025. 11. 01

「詩篇」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】ヨハネの福音書5章39～40節

39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、
聖書を調べています。
その聖書は、わたしについて証ししているものです。
40 それなのに、あなたがたは、いのちを得るために
わたしのもとに来ようとはしません。

●イェシュアは私たちに聖書を正しく解釈することを教えています。それはイェシュアという鍵を入れ込むことで、初めて言わんとすることが見えて来るということです。詩篇もそのように、預言的、奥義的、重層的に読んで行きたいと思います。詩篇の多くはダビデによるものですが、イェシュアはダビデよりも前におられる先取的存在です。つまり、ダビデはイェシュアを証しするために存在させられているのです。

1. テキスト

【新改訳2017】詩篇23篇　　ダビデの賛歌

1 主は私の羊飼い。私は乏しいことがありません。
2 主は私を緑の牧場に伏させ　いこいのみぎわに伴われます。
3 主は私のたましいを生き返らせ
　御名のゆえに　私を義の道に導かれます。
4 たとえ　死の陰の谷を歩むとしても　私はわざわいを恐れません。
　あなたが　ともにおられますから。
　あなたのむちとあなたの杖　それが私の慰めです。
5 私の敵をよそに　あなたは私の前に食卓を整え
　頭に香油を注いでくださいます。私の杯は　あふれています。
6 まことに　私のいのちの日の限り
　いつくしみと恵みが　私を追って来るでしょう。
　私はいつまでも　主の家に住まいます。

2.「人称」①

【新改訳2017】詩篇23篇　　ダビデの賛歌

1 主は私の羊飼い。私は乏しいことがありません。
2 主は私を緑の牧場に伏させ　いこいのみぎわに伴われます。
3 主は私のたましいを生き返らせ
　御名のゆえに　私を義の道に導かれます。
4 たとえ　死の陰の谷を歩むとしても　私はわざわいを恐れません。
　あなたが　ともにおられますから。
　あなたのむちとあなたの杖　それが私の慰めです。
5 私の敵をよそに　あなたは私の前に食卓を整え
　頭に香油を注いでくださいます。私の杯は　あふれています。
6 まことに　私のいのちの日の限り
　いつくしみと恵みが　私を追って来るでしょう。
　私はいつまでも　主の家に住まいます。

2.「人称」②

●詩篇23篇は「主」と「私」という人称しかありません。4～5節では「主」が「あなた」に置き換えられています。この詩篇は「主と私のかかわり」を語っている詩篇です。

●ところで、ここにある「私」とは誰のことを指しているのでしょうか。表題にはダビデによるとありますから、ダビデだと思ってしまいます。ところが、「詩篇」を学ぶ上で大切な視点として「詩篇の多くはダビデによるものですが、イェシュアはダビデよりも前におられる先取的存在です。つまり、ダビデはイェシュアを証しするために存在させられているのです」という前提で見るならば、この視点は「御父と御子のかかわり」を歌った詩篇と見ることができます。

2.「人称」③

●ルカの福音書に、12歳のイエシュアが記されています。

【新改訳2017】ルカの福音書　2章49節
すると、イエスは両親に言われた。「どうしてわたしを捜されたのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当然であることを(＝必ずいることを)、ご存じなかったのですか。」

●イエシュアの人としての生涯は、最初から「自分の父の家にいる」ことであり、父の仕事をしていたのです。「幼子(イエシュア)は成長し、知恵に満ちてたくましくなり、神の恵みがその上にあった」(2:40)のも、御父の家の中に住む祝福でした。人としてのイエシュアは、やがて私たちがキリストにある新創造である「霊の中に生きる」ことの模範なのです。

3. 全体の構造 ②

●詩篇23篇は「御父と御子の麗しいかかわり」を歌っているのです。「私」のことを「自分」のことではなく「イエシュア」として味わってください。人として歩まれたイエシュアを知り、そのイエシュアの中へと入ることが、いのちを得ることになるのです(ヨハネ5:39)。

●ここで、私が2009年に作曲した詩篇23篇を聞いてください。
この詩篇の結論は、最後の6節はです。

A. 私に対する主のかかわりの結論
「私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが私を追ってくる」

B. 主に対する私のかかわりの結論
「私は いつまでも 主の家に住まいましょう」

3. 全体の構造 ③

- 「いつくしみと恵みとが私を追ってくる」根拠は、二つです。

  ※「いつくしみ」は「トーヴ」(טוֹב)/「恵み」は「ヘセド」(חֶסֶד)

(1)「主が、私の羊飼いであること」　The Lord is My Shepherd.
(2)「主が、私をもてなす主人であること」 The Lord is My Host.

- 「主が私の羊飼いである」ことの内容は以下の七つです。

① 乏しいことがない(充足)
② 緑の牧場に伏させる(安息)
③ 憩いの水のほとりに伴う(静謐)
④ たましいを生き返らせる (回復)
⑤ 義の道に導かれる(導き)
⑥ ともにおられる(臨在)
⑦ 慰めを与える(慰め)

①～⑦の一つ一つを、次回から味わっていく予定です。

3. 23篇の全体の構造 ④

●「主が私をもてなす主人である」とは・・

(1) 敵前で食事を整えてくださる(歓迎)
(2) 頭に油を注いで歓待してくださる(もてなし)

●このような御父の御子に対する手厚いもてなしは、御子イェシュアに大きな喜びをもたらします。それをイェシュアは「私の杯はあふれている」と表現しています。

今回のまとめ

●詩篇23篇を通して、

御父と御子イェシュアとの麗しいかかわりを知り、
そのかかわりの中へと入るためには、
キリストの「いのちを与える霊」が不可欠なのです。
私たちのたましいでは、それは不可能です。
旧約ではそのことを隠して、
預言的・奥義的・重層的に語られているのです。

●次回から、イェシュアが人として味わった御父の「トーヴとヘセド」の一つ一つを、味わっていこうと思います。